

第2章 プロジェクトの周辺状況

2 - 1 当該セクターの開発計画

「ホ」国の文化財保護政策は 1845 年にコパンにおける不正な発掘を禁止したことから始まる。その後も 1900 年代に次々と文化財保護に関する法令を発出し、1946 年に歴史的建築物、考古的建造物の探査、保護、保存、修復を行う研究機関を設立する法令が出され 1952 年に IHAH が設立された。1984 年「ホ」国政府は文化財保護法を制定し国内に広く広報し盗掘を防ぐと共に歴史・考古的価値のある骨董品の収集家へ収集品を IHAH へ登録させることになった。さらに 1997 年に改正された文化財保護法ではさらに厳しい罰則規定を設けると共に IHAH の文化財保護に関する権限を拡大している。この法令の中で「文化財」と規定しているものは有形・無形を問わず考古的・歴史的価値のある構造物、水面下にあるものも含めたサイト、地域、遺物、文書等、人（生物）、言語、としている。

この法令（1997 年）の中で「ホ」国政府は IHAH の権限を次の様に規定している。

- ・ IHAH は文化遺産の発掘、土木、森林伐採、構造物の改修、建造物の改築または取り壊しを行う唯一の機関である。
- ・ IHAH は考古学の出土品や歴史的遺物のレプリカやコピー作成の権限を与えることができ、レプリカやコピー作成に従事するものは IHAH へ登録しなければならない。
- ・ 文化遺産の保護、警備、放映に関わろうとする非営利学術または文化団体は文化・芸術・スポーツ省へ申請し法務省にて登録した上で IHAH の監督の下、IHAH の外郭団体として活動する。
- ・ IHAH は十分な学術知識と技術を持った非営利組織を任命し文化遺産の調査、探査、発掘、保存や新しい考古学公園の開発を IHAH の責任と監督の下で行わせることができる。また、歴史的または人類学的遺産に関わる番組や映画製作、博物館の設立に関しても IHAH は権限を与えることができる。

考古学地域、歴史的建造物や都市において広告、宣伝、ポスター、駐車場、ガソリンスタンド、電線、電柱、変電施設や避雷針、街頭、売店や文化的または自然の景観を変えるような建造物の建設を規制する。

2 - 2 他の援助国、国際機関等の計画

2 - 2 - 1 世銀

第 2 世銀が現在コパン遺跡保存統合計画に資金を提供しているが、この資金は労働者の雇用、石材等の資材購入のみに使うことができる。しかし、これは「ホ」国に提供されることになっている 140 万米ドルの借款の一部に過ぎず、その借款の内 100 万米ドルが IHAH が策定するマスタ

ープランに沿ったプロジェクトに使用されることとなっている。マスタープランを策定しているのは米の野生生物保存協会（本部NY、本件に携わっているのはフロリダ支部）であり、16年前に自らが策定したマスタープランを元に現在新たなマスタープランを策定中であり、2001年5月頃完成予定である。

第2世銀の資金は主に人件費と最小限の遺跡保存用資材にのみ使用することとなっており、本案件との重複は無い。

2 - 2 - 2 ユネスコ

ハリケーン・ミッチ後に行われた緊急復興援助では、ハリケーンの際、コパン川が氾濫し、水が旧河川跡まで溢れ、その激しい流れがラス・セブルトゥーラス地区の遺跡を一部押し流してしまったことを受け、旧河川の岸の補強工事を行っている。ユネスコ信託基金による資金援助等は無い。

2 - 2 - 3 UNDP

99年の大雨によって上述のユネスコの援助で補強された部分の下流で、再びラス・セブルトゥーラス地区の遺跡の一部が流されてしまったため、UNDPが針金で編んだ箱に石を詰めた布団籠と呼ばれるもので補強工事を行った。これは単発の緊急援助である。

2 - 2 - 4 米ゲティ研究所

米ゲティ研究所は「神聖文字の階段」プロジェクトを行っている。マヤ碑文が刻まれた「神聖文字の階段」の保存に関する研究を行っており、研究者を派遣している。2002年までIHAAとの契約により研究活動を行っている。技術協力や機材供与はほとんど行っていない。

2 - 2 - 5 その他

上記ゲティ研究所以外にも米からはハーバード大学、ペンシルバニア大学、ペンシルバニア州立大学、チューレーン大学等が遺跡の調査等を行っているが、いずれも自己の研究のため、ホンデラス人の人材養成や機材の寄贈等を行っているものではなかった。

またスペイン政府が、教会や聖堂など植民地時代における歴史的建造物等の修復に関する資金援助を行っているが、本案件は植民地時代以前の考古学活動を中心とするものであり重複は無い。

2 - 3 我が国の援助実施状況

我が国の実施した当該分野における無償資金協力は以下の通りである。

表 - 2 過去の関連援助

年度	案件名	調達品目	金額
1984	ホンデュラス歴史・人類研究所に対する遺跡保存機材（文化無償）	車輛、測量機器、写真撮影・現像機材、実験室用機材	0.5 億円

技術協力分野では青年海外協力隊を中心にエル・プエンテ遺跡発掘・修復・公園整備プロジェクトが 1982 年から 1998 年にかけて行われ考古学関連の JOCV 隊員 28 名、シニア隊員 4 名、国連ボランティア 1 名が派遣された。

2 - 4 プロジェクト・サイト及び周辺の状況

2 - 4 - 1 社会・経済状況

「ホ」国はコーヒーやバナナを主要産品とする農業国である。しかしながら 1998 年 11 月に襲ったハリケーン・ミッチにより大打撃を被っている。死者は 5,000 名以上、被害総額は約 30 億ドルにのぼる。特に主な産業である農業について落ち込みが激しい。

国の GDP 産業別構成は農業 20%、鉱工業 25%、サービス業 55%（1998 年）であるが産業別雇用は農業 29%、鉱工業 21%、サービス業 50%（1998 年）である。⁵ 主な輸出産品はコーヒー、バナナ、海老、ロブスター、肉、亜鉛、木材である。輸出分野においてもハリケーン・ミッチによる打撃は大きく、さらにコーヒーの国際市場価格の低迷が続いており「ホ」国の国家経済を圧迫する要因となっている。

近年「ホ」国の抱えている問題は都市人口の増加、住宅開発や農業開発による森林伐採、乱開発による土壌浸食などが挙げられている。

2 - 4 - 2 自然条件

「ホ」国は、北緯 13 度～同 16 度 32 分、西経 83 度～同 89 度 20 分に位置し、中米地峡のほぼ中央に存在する。北はカリブ海に面し、西部はグアテマラ及びエル・サルヴァドルとまた南部はニカラグアと国境を接する。面積は 112 千平方キロ、わが国の 3 分の 1 弱で北海道と九州の合計面積よりやや狭い。国土の 65% が山岳地帯で、平均標高 1,000～1,500 メートルの高原地帯が中央部から南部にかけて横たわっている。環太平洋火山帯が西に逸れているため、中米諸国にあって国内が震源地となる地震がない唯一の国である。⁶

海岸地方特にその平野部は高温多湿の熱帯性気候であるのに対し、高原地帯は比較的凌ぎやす

⁵ 数値は CIA World Factbook 2000 年度版より

⁶ 数値はラテン・アメリカ協会資料、1989 より

い気候である。例えば、太平洋岸のアマパラ（Amapara）では最高 39（4月）、最低 20（12月）、湿度も9月には78%となる一方⁷、高原地帯の首都テグシガルパでは、月平均気温は1月が最低で19.2、最高は5月の23.7である。カリブ海岸地方は雨量が多く、ハリケーンの襲来で年々水害が発生している。⁸

2 - 4 - 3 社会基盤整備状況

2 - 4 - 3 - 1 主要道路

道路総延長は15,400キロメートルで、うち舗装道路は3,126キロメートル、舗装化率は約20%となっている。首都テグシガルパからの主要幹線道路はほぼ舗装されている。ホンデュラスの最重要道路は2本あり、1本は南北ハイウェイで首都とサン・ペドロ・スーラを結び、他はホンデュラスとニカラグア及びエル・サルヴァドルを結ぶパン・アメリカン・ハイウェイである。

道路総延長のうち約38%が雨期の通行が困難となり、輸送手段を道路に依存しているホンデュラスでは、経済発展促進の観点からも道路網の整備が必須である。⁹

道路の建設・補修のための資金は、諸外国並びに国際援助機関から得ている。1994年9月、延長27キロメートルに及ぶ首都環状道路建設資金にかかる資金について中米統合銀行との融資協定が調印された。

1998年10月のハリケーンミッチの影響により当時は各地の道路、橋が寸断されたりと被害状況は甚大であった。また、その後の1999年、大雨によりテグシガルパ、サン・ペドロ・スーラ間の幹線道も地すべりにより寸断されたが2000年12月現在、ほぼ修復され、大型車の通行不能な箇所は迂回路を設け交通機関としての役目は果たせるようになっている。テグシガルパよりコパン・ルイナスへ向かう際に通過するサンタ・バルバラの幹線道は橋が1ヶ所流出し、仮設橋により通行可能で流出後の架橋工事も順調に進んでいる。

2 - 4 - 3 - 2 海運

最大の港はカリブ海に面したコルテス港で、近代的な設備を有し、唯一の製油所を持っている。10隻の船舶が接岸でき、1991年はホンデュラスの輸出入貨物の約77%を取り扱った。海運会社数社が米国とのコンテナ・サービスを行っている。

このほか、カリブ海側にバナナ積み出し港が3つあり、太平洋側にはスペイン征服時代より使用されて来たアマパラ港があって、近くのサン・ロレンソ港の補助的役割を果たして来た。これらの港は何れもごく小規模で、採算のとれる程の荷動きはない。また、港湾関係施設は国

⁷ 数値はラテン・アメリカ協会資料、1989より

⁸ 数値はJICA資料、1991より

⁹ 数値はCIA World Factbook 2000年版より

営港湾公社が経営する。

コルテス港についての現状は、ハリケーンによる影響は無く通常どおり作業が進められており、完全に正常化している。

2 - 4 - 3 - 3 電力

発電容量の内訳は、水力が約 66%、火力が約 34%となっている。1985 年に完成した発電能力 29.2 万 Kw のエル・カホン・ダムは電力供給の約 58%を占めている。1991 年の総発電量は 23.18 億 Kwh である。¹⁰

従来はエル・カホン・ダムの発電能力に余裕があったため、1991 年まではニカラグア、パナマ、コスタ・リカなどへ売電を行い貴重な外貨を獲得していた。しかし、国内消費量の伸びが著しい上、エル・カホン・ダムのタービン故障を含む技術上の諸問題や旱魃による水位低下のため、92 年以降電力の輸出は中止された。

2000 年 12 月における現状は地方部における計画停電が実施されており、平均して週に 1 度、24 時間の間停電がある。

2 - 4 - 4 既存施設・機材の現状

(1) IHAH 本部及び管内

施設

IHAH 本部はテグシガルパ市内に位置し、敷地内に博物館（共和国博物館）も併設している。敷地は元大統領の官邸をそのまま貰い受けたものであり博物館は元大統領官邸である。IHAH 本部は管理棟（所長室、人類学調査部、歴史学調査部、図書室）、事務棟（総務部、監査部、修復部）、及び保存部と人類学調査部の倉庫兼作業場がそれぞれ別棟として併設されている。

コマヤグア（コマヤグア県コマヤグア市）においては以前に支部がありエル・カホンダム水力発電プロジェクトにおける緊急発掘の際の拠点となっていたが、現在は緊急発掘による出土品の倉庫とスペイン政府の資金援助により建設された考古学博物館があるのみである。

タラグア洞窟（「ホ」国東部カタカマス近郊）においては現在ビジターセンターを建設中である。

「ホ」国東部のモスキーティア地方プラタノ川流域は世界自然遺産にも指定されている未開発の地域である。海岸沿いのプラシオはドイツの協力によりエコツーリズムとインフラ整備事業が行われている。IHAH ではこの地域での盗掘が多い為 1997 年から 1998 年にかけて考古学サイトマップを作成し重要なサイトの選定を行っていたが、1998 年のハリケーン・ミッチに

¹⁰ 数値は CIA World Factbook 2000 年版より

より中断した。2000年10月から作業を再開し現在2名の研究員をプラシオへ派遣している。

機材

既存車両はピックアップ車6台、バントラック2台だがバントラック2台は故障、1台の1984年度の文化無償にて供与されたピックアップ車を含め全6台中5台は既に10年以上使用している。コンピューターは18台使用中であり人類学調査部に3台、保存部及び倉庫で3台使用されている。このうち1990年以降購入されたものは人類学調査部の1台(1993年購入)と倉庫で使用されている1台(1992年購入)である。測量機材も1984年度文化無償において供与されたものを使用している。これらのセオドライトやレベルは、当時としては精度が高いものであったが、現在の機材と比較すると一般的な精度より低いものとなっている。またトータルステーションは、日本でも1980年代後半から一般に普及が始まったものであり、IHAHへは未導入である。

調査用撮影機材は研究者の個人所有のものを使用しておりIHAH所有のものは無い。

(2) 西部地区事務所管内(図-2「コパン・ルイナス」参照)

施設

コパン遺跡のあるコパン県コパン・ルイナスにはコパン遺跡公園及び、ビジターセンター、石造彫刻博物館、考古学博物館、地域考古学調査センター(Centro Regional de Investigaciones Arqueológicas - 以下 CRIA)がある。管理の中核はビジターセンターであり事務や経理処理、本部や他の支部、各サイトとの連絡を行う地区長室、入場券販売コーナー、売店、展示コーナー、通訳ガイド斡旋コーナー等がある。ビジターセンターから数十メートルの距離に1996年開設の石造彫刻博物館がある。トンネルの入り口を抜けると2階建ての回廊に遺跡から発掘されたオリジナルの石造彫刻が展示され中央は吹き抜けで天井が無く、実物大のロサリラ神殿(図-1「ロサリラ神殿想像図」参照)¹¹レプリカが展示されている。入り口とは別に展示物の搬入口と展示物準備室兼資機材置き場がある。ビジターセンターからボスケ(森)と呼ばれる未修復のサイトを通り100メートル程歩いたところにコパン考古学公園メイングループのゲートがある。

¹¹ コパン王朝において、通常であれば打ち壊してから増改築を行うのに対し、数年前に発見された王朝初期の頃のものと思われるこの神殿はほぼ完全な形でアクロポリス地下に埋まっているのが発見された。



図 - 1 ロサリラ神殿想像図

(ナショナル・ジオグラフィック誌より転載)

コパンでは5世紀中頃から9世紀頃までの石碑等が発見されており、マヤ文明の南東地域の政治・経済・文化の中心的存在として繁栄していた時期にはコパン川に沿って長さ13km幅3kmの広大な面積があった。現在一般に公開されているのは神殿、球技場、広場等からなるメイングループと、サクベとよばれるマヤ文明の道で結ばれたエリート居住区であるラス・セブルトゥーラス地区である。1990年代に入っても新たな発見は続いており、アクロポリスの中からほぼ完全な形で発見されたロサリラ神殿はその一部が見学用のトンネルを使って一般に公開されている。また昨年(2000年)には予想外のサイトから王墓が発見され、発掘、修復後に小遺跡公園として一般公開される予定である。修復され一般に公開されているのは遺跡の一部に過ぎず、調査時も遺跡の修復やコルテの保存工事が進められていた。公開されている部分は芝地や植林による緑化事業が行われており良く整備されている。

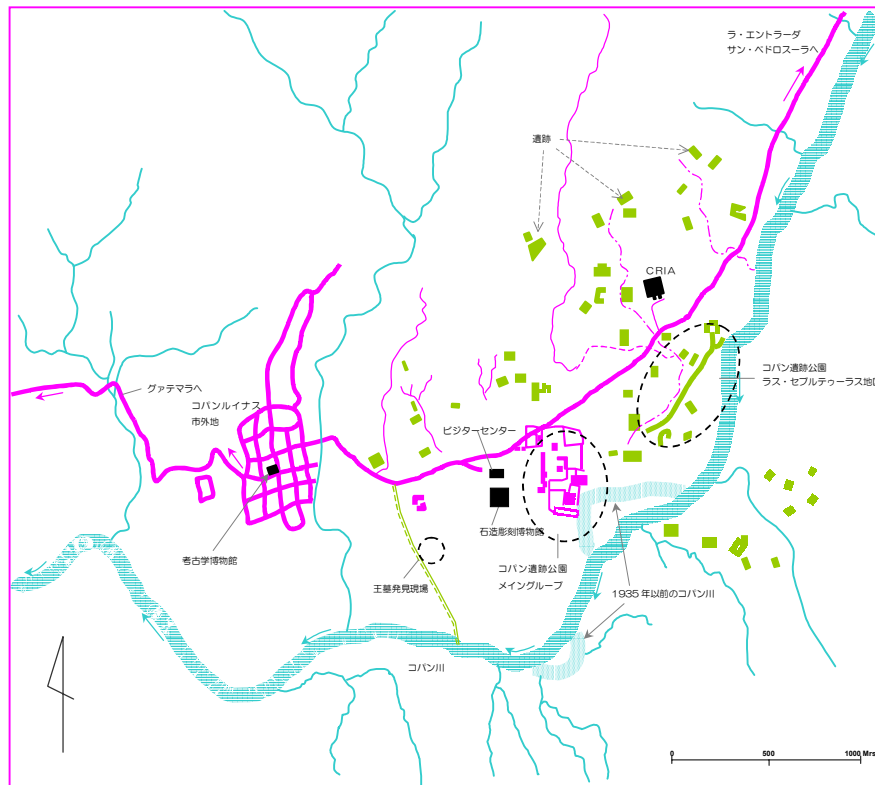


図 - 2 コパン・ルイナス

ラス・セブルトゥーラス地区も緑化事業が良く行われており樹木も良く保存されている。コパン王朝の書記の家等エリートの住居が復元され一般に公開されている。メイングループとは本来つながっているのだが間に私有地があり、個人が訪問するには多少の距離を徒歩で移動することになる。

考古学博物館は町の中心部に位置している。マヤ暦の解説展示や土器の種類・形状・色等による年代や地域の比較展示、他のマヤ地域との繋がりや比較の展示、コパン王朝に関する展示など小規模な博物館ではあるが良く整理されている。14年間変更されていない展示が多く、新たな発見や解釈を含めた展示の改修が必要とされている

1978年に設置された地域考古学調査センター CRIA はコパン・ルイナス郊外のラス・セブルトゥーラス地区近くに位置している。出土品修復・実測室、写真撮影室、現像室、製図室、資料室や大小多数の倉庫と PICPAC の事務所や米国各大学の研究室があり共同で使用している。米国の各大学は IHAH との契約に基づき研究分野・地域を分担し別契約に基づき研究員を派遣している。石造彫刻を洗浄・分類・登録・保管する為の倉庫はこれまでの増築にもかかわらず年々手狭になってきている。

エル・プエンテ遺跡公園はサン・ペドロ・スーラとコパン・ルイナスの間にあるラ・エントラダから約 8km 北に入ったところにある。以前 JOCV のプロジェクトが実施されていた頃はラ・エントラダに拠点となる事務所が置かれていたが、遺跡公園が整備された現在は、エル・プエンテ遺跡公園内に事務所が置かれ、かつての事務所は倉庫として利用されている。

博物館施設や展示、公園施設は良く整備されているもののハリケーン等によりインフラ整備が遅れており、舗装道路は 1999 年末に開通したが電話線や公共電力は来ていない。

機材

西部地区の車両はコパン・ルイナスに 6 台あるが、1990 年以降に購入された車両はダンプトラック 1 台のみであり、1984 年度文化無償により供与されたステーションワゴン、ピックアップトラック 2 台は現在も修理を繰り返しながら使用している。エル・プエンテには JOCV プロジェクトから供与されたステーションワゴン 1 台の他ピックアップトラック 2 台があるが、1990 年から 1994 年の間に購入されたものである。P/C はコパン・ルイナスに 2 台、エル・プエンテに 2 台あるがそれぞれ古いモデルであり、コパン・ルイナスでは事務、経理処理に使用され、エル・プエンテでは電力が無い為使用されていない。研究活動に使用している P/C や周辺機器は研究者の個人所有のものである。写真撮影・現像機材は 1984 年度文化無償により供与されたものであり、撮影機材に関してはほとんどが故障、研究者個人の機材を使用している。現像機材については大きな問題も無く使用されている。

なお、現在エル・プエンテにおける電力供給は小型の発電機（1984 年度文化無償供与機材）による井戸水の汲み上げとソーラー発電による博物館内展示の一部への照明のみである。

(3) 北部地区事務所管内

北部地区事務所はサン・ペドロ・スーラの郊外約 10km 離れたラ・リマ市内に位置し、オモア支部とトルヒージョ支部を兼轄している。また、主な活動は現在建設中のロス・ナランホス公園の施工管理と管轄地区内における緊急発掘、上記 2 支部の経営・労務管理である。事務所は所長室、事務室、倉庫、研究室から構成されているが研究室は米国の研究者が年に数回やってきたときのみ使用されているようである。緊急発掘による出土品やバザー等に出回る歴史的遺品（盗品）の回収により倉庫が既に手狭になっている。機材は巡回用車両と事務用品、発掘用のシャベル等があるのみで調査・発掘用のキャンプ用品は米国の大学のものである。緊急発掘に必要な資機材及び人員は緊急発掘の都度西部地区または本部より借用している。修復、復元が必要な出土品は本部へ送っている。